

## 平成 27 年度 第 2 回 尼崎 21 世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成 28 年 3 月 17 日 (木) 9 時 40 分～11 時 40 分

場所 尼崎の森中央緑地パークセンター会議室

### ■会長挨拶

本日の議題にある中間総括において、最初のページにドイツの世界的な地理学者リヒトホーフエンの文章が紹介されているが、当時、ヨーロッパではイギリスの自然風景式庭園やフランスのエコミュゼなど自然の風景を推奨するロマン主義運動が盛んな時期であった。その時に瀬戸内海が「世界でもっとも魅力的な風景」として紹介されていた。当時から 100 年を経た現在に 100 年かけて森をつくる取組に関係していることは感慨深いものがある。

現在、欧米で流行している取組は工場跡地を公園にすることである。不動産用語でグレーフィールドと呼ばれるエリアを公園にすることである。尼崎は欧米で取組まれる以前から森づくりを住民参加で行っていたことから、トップランナーでといえるであろう。

また、子育ての一環として農薬や肥料を使わないため、土を子供が舐めても安全なオーガニックガーデンを作っていこうということも世界的な流れとなっている。

このようなことを尼崎 21 世紀の森づくりでも、どんどんやっていければと思うので、前向きな総括として意見交換をお願いしたい。

### ■議事

#### ○資料説明 1 (事務局)

資料をもとに、第 1 回協議会委員意見とその対応、関連資料 (モニタリング調査結果及び企業アンケート結果等) について事務局より説明した。

### ■意見交換

委員 : 尼崎の森中央緑地の植物の種類について、目標に対して現状はどのような状態であるのか。植物が 114 種であれば普通の公園と同じくらいである。尼崎の森中央緑地は 300 種くらいが目標であったかと思う。また樹木の植栽本数についても目標本数に対してどのような状況であるのかも教えてください。

事務局 : 植物の目標種については 300 種である。植樹本数の目標については、当初 20 万本であったが、整備計画に合わせて植栽エリア、植栽密度を見直し、現在は 14～16 万本に変更している。昨年度末で 6 万 1 千本、今年度末で 7 万 1 千本が植栽されると試算している。

会長 : 国立科学博物館では各地の産業遺産の保管に向けて、情報収集の検討をはじめているようである。尼崎 21 世紀の森づくりでも、産業遺産の保管についてうまく提案できれば、東京よりも先に議論していることを PR できるのではないかと。

委員 : 産業遺産の内訳について、どのようなものがどこにあるか教えてほしい。

委員 : 尼崎の森中央緑地の来園者数の目標人数は設定されているのか。目標に対してどのよう

な状態であるか。

事務局 : 来園者数の目標は決めていないが、スポーツの森では45万人/年が訪れるので、そのうちの約10%が中央緑地に来園することを想定している。イベントには合計で約23,500人が来園している。

また、イベント参加以外では、平成27年4月~平成28年2月の間で、散歩や家族の憩いを目的に来られる来園者は9万人と集計されている。

委員 : 尼崎の森中央緑地の全体の来園者数に関して、来園者の特色は把握されているか。例えば環境学習などで訪れる学校(約4000人)は尼崎市内なのか市外なのか。また、企業の利用者が多いのか、地元の団体が多いのかなど、来園者の分析を行っていただきたい。

会長 : このお話しは、専門用語でいうと「客の囲い込み」であり、どの学校がどこから来て、どのくらいリピートしているかなどを調べ、リピーター確保に向けて公園利用に関する情報提供などを積極的に行うなどの取組が必要である。

委員 : 環境学習などに関する学校の利用については、尼崎市内であれば市の環境学習事業として位置づけられており、毎年リピーターになってもらっている。しかし、西宮市、芦屋市はそのような位置づけがなく、まだまだ来園が少ない状況である。バスの助成の制度化を行っているが、ほとんど利用されていないので、もっとPRしていく必要がある。先ほど事務局から説明があった散歩や憩いなどの利用と環境学習の利用は質が違う。このため利用者数については、カテゴリー分けをして分析し、カテゴリーごとに利用者数の目標の設定を行いたい。

委員 : 企業のアンケートについては、分析のポイントや調査時期がバラバラであるので、何をみたらいいのかわからない。その他、今後に向けて、尼崎の森中央緑地の利用実績や企業意見に関する評価軸については、「認知度をあげるもの」を採用するのか、「どのように利用してもらうか」を採用するのか、どのポイントで情報収集や分析をしていくのかを踏まえ、今後、来園者の声をどのように聞いていくのかについて伺いたい。

事務局 : 現在は、認知度を上げるためのアンケートを実施している。また、認知度をあげるために、新聞でPRを行っている。当面は、認知度をあげることが大事であり、みんなで取り組む100年の森づくりのコンセプトをPRしたいと考えている。知ってもらったあとは、具体的な森づくりの活動に参加していただいて、活動を活発化させていきたい。

委員 : これまで実施したアンケートについて、経年変化が確認できるように、例えば、「はじめてきたのか」、「交通手段は何なのか」など各アンケートで同じ項目の設定はされているのか。

事務局 : イベントを行った際には、参加者にアンケートを実施している。アンケートを行う際には、どんな手段で来園したのかなど、経年の変化が比較できるように同じ項目を入れて

いる。

委員 : 現状ではイベントが体系化されていないため、利活用の方向性は打ち出したが、その時々でイベントを開催している状況である。このため利用実績に関する評価軸も設定できていない。認知度に関しても現在、ヤフーマップ、グーグルマップにも載っておらず、また車のナビゲーションにも掲載されていないので、認知度を上げることを強化していきたい。

委員 : 中央緑地を使用する際の料金、芝生の使い方など、利用のルールが告知されていない。市民は使い方がわからないと思う。ネットで詳しく紹介すべきだが、ネット申込みなどに頼ってしまうと、申し込んだ人とは別の人が来るなどのトラブルが発生する。例えば、団体に利用した場合、利用数のカウントなどを団体が協力して行うなど、尼崎の森らしい使い方のルールを今後、議論していきたい。

会長 : これまでの満足度を把握するアンケートだけでなく、満足するにはどうしたらいいのかを検討できるようなアンケートにすべきである。

例えば、尼崎 21 世紀の森構想エリアに立地する企業として誇りを持ってもらえるような、また、企業で働く人の家族に来てもらえるようなモチベーションがあがるアンケートをすべきである。何のためにアンケートをやるのか目的をはっきりさせておく必要がある。

また、イベントに関しては、例えば初心者向けからリピーター向けまでのイベントや、主催イベントから色々なボランティアと一緒に実施する共催イベントまで多様である。人と自然の博物館ではリピーター確保するようにしている。こうすれば、わざわざ大きなイベントを開催し、遠方からきてもらって目標利用者数の帳尻合わせをしなくてもよくなる。

尼崎では、リピーターとして、近くの工場に勤めている人等に来てもらえるようにすればよいのではないか。これが当面の課題である。これを解決するとこれまで議論した話しがうまくまとまっていくと思う。

## ■議事

### ○資料説明 2 (事務局)

資料をもとに、尼崎 21 世紀の森構想の中間総括 (案) について事務局より説明した。

会長 : 雨水活用については発想を替えて◎でいいのではないか。雨水タンクの設備を作って、そこに貯めてから動力ポンプで押し出して使用するというエネルギーをたくさん使う発想には限界がある。海外ではもうそのようなことは、時代遅れになってきている。天水をそのまま利用するレインガーデンなどを参考にし、価値観を替えて検討いただきたい。

委員 : アクセスなど交通関係の話はどうするのか。尼崎市バスは阪神バスに代わるため、これを機会に検討しておく必要がある。

また、企業等の参画に関する事業について、継続的なものになっているのか知りたい。この前、大庄地区の社会福祉協議会でハイキングを兼ねて中央緑地を訪れた。子ども会で写生会も行なった。このような活動を定例化してもらえるようにすれば、もっと訪れる人も増えると思う。

また、尼崎 21 世紀の森づくりに関して、聞かれることがあるが、地元の住民が答えられないことも多い。例えば商工会議所などが、尼崎 21 世紀の森づくりや中央緑地のことを地域で説明できる場を年 1 回～2 回設け、パンフをつくって説明したらどうか。工場のお父さんは興味ないかもしれないが、お母さんは興味があるかもしれない。

委員 : 尼崎鉄工団地協同組合は東海岸町にあるのだが、阪神高速の料金体系が変わって 200 円から ETC で 520 円、現金だと 930 円に値上がった。料金の面から中央緑地にくることが難しくなっている。

鉄工団地周辺ですき間緑化をやっているが、活動が面として広がらない。特区などを設けて、高速道路料金の値下げや無料化ができればスタッフを連れてくることができ、森づくりに参加できる。

会長 : 明石海峡大橋の料金も下がった経緯があるので、可能性はあると思う。次年度以降のプロジェクトに入れ込んでがんばっていただきたい。

委員 : 中間総括案には活動主体が示されているが、今後、現在の活動主体や登場人物が固定化しないようにし、ステークホルダーが多様化すれば活性化すると思う。今年と去年の企業や団体数の比較などによる「見える化」を行い、活動団体の多様性をどう確保するか検討しておく必要がある。

委員 : 現状の尼崎の森中央緑地は基盤整備が遅れていることもあり、申請しても森づくりができない団体が多いという印象がある。また、われわれアマフォレストの会は市民団体としてうまく活用されていないと感じている。市民のポテンシャルは高い、他の団体を増やす必要もあるが、既存の団体ですらにできることや、活動を広げることを考えて欲しい。大勢の人に来てもらって、森づくりに関わる人を育成し、先導・中核拠点である中央緑地の生物多様性の森づくりを早く仕上げ、森を利活用する方向にシフトしてほしい。

会長 : 事務局はご指摘のような内容を評価軸に入れるよう検討していただきたい。

委員 : 実際には尼崎 21 世紀の森といいながら、まだ森はできておらず、あと 10 年後を目指してその時にブームがくるようなしなかけを、みんなでがんばって検討したい。  
また、工場からの匂いが少し気になる。森ができた時に、良い気分で行きたい。もっと匂いを抑えられるのではないかと思います。

事務局 : 来年度から 3 工区で植樹できるようになっている。今後、基盤整備を行い、市民とともに森づくりを行っていききたい。アマフォレストの会の取組みについても、指定管理者と

連携して、サポートしながら進めていければと思っている。

委員 : 中間総括における産業活性化については、まちづくりそのものであり時間のかかるものである。計画経緯から県が主導して、尼崎市の産業部局、まちづくり課と連携し、企業には声かけをしてまちづくり全体を担う組織・人材を育てることが必要である。アンケートは、結果でしかないため、企業が参画する前の段階から、森づくりの意図を伝えるための声かけをしていくべきである。森の会議は「参加したい人」、「やりたいことがある人」が来る場である。それとは別にそもそも中央緑地等に来ようと思っていない人への働きかけが大事であり、働きかけがないと活動に参加してくれないであろう。

会長 : 行動計画に、もう少し楽しいものを盛り込むべきということである。藤本委員は有馬富士公園が整備された当時、お茶の先生、ダンス、音楽演奏家など色々な団体を呼び込んで話題になった経緯がある。

委員 : 企業参画については、企業運動会など社員の福利厚生向けに中央緑地を利用してくださいという呼びかけでいいのではないか。現在の行動計画の産業活性化の項目は、研究等ハイレベルのことが記されており、周辺の工場など企業の利活用に絞ったほうが良いかもしれない。

委員 : 労働組合から企業へ呼びかけてもらうようにすれば話しが早いと思う。労働組合があまり活用されていないので、こちらからこんなことができますよと呼びかけるのも良いと思う。

会長 : 知人の会社の話しであるが、現在、社員同士はネットでの会話が主になっている。運動会をやれば人と人の顔が見え、会話が生まれ、社員同士仲良くなれる。このため、会社として、運動会を重要視しているとのことである。

委員 : 中間総括は100年の中の10年目くらいで、第1回目の総括と考えてよいのではないか。森の会議を含め、10年で大分変わったと思う。運動会は良い企画であると思う。運動会は企業でも学校でも楽しめる。これらをソーシャルネットワークでどんどん発信していくべきである。また、アクセスはとても大事なので、例えば、エコの取組であれば太陽光発電で充電できる設備、水素ステーションを中央緑地に設置するなど、アクセスとあわせてクリーンエネルギーの利用を検討してはどうか。高速道路料金は確かに高いので、そのことを言い続ければ良いと思う。千葉のアクアラインも料金が下がった実績がある。今後の行動計画の方向性については、現行の内容を全部把握し、進めるのは難しいと思う。今後、森の会議等の場を活用してアンケートでやりたい内容等を把握して、行動計画に盛り込んでいただければよいのではないか。

会長 : 運動会はぜひやってください。備品類を用意することや、企業で余っているものがあれば綱引きロープを倉庫に置いて貸し出すなどをやってはどうか。  
また、尼崎の森中央緑地の圃場も世界に自慢できるものなので、もっとPRしてはどうかと思う。

事務局 : 企業の運動会については、毎週土日曜日を占有されて利用されるのは、他の利用者との調整もあるので難しい。定期的に特定日（スーパーデー）をつくって、そこで運動会を実施するやり方などを検討していきたい。

会長 : 現在、国土交通省では、都市公園において、都市公園法の縛りでできないことを実施するにはどうしたらよいかを検討しており、尼崎でも例えば保育士が常駐する公園、農薬、化学肥料を使っていない土を使ったオーガニック、有機ガーデン、レインガーデンづくりなど、お母さんが安心して訪れることができる公園づくりなどを検討したい。  
また、丹波で取組まれているシューベルティア DE たんぼ(田んぼの上にゴザを敷いて、また、お寺で生演奏を行う)のようなものを、尼崎 21 世紀の森では工場を借りて演奏会をすることなどを検討してはどうかと思う。つまり、緑や環境関係以外の人、公園に全く関係ない人に来てもらうための動機づけをどうするかについて検討すべきである。大阪府では兵庫県の後追いで公園にスターバックス、セブンイレブンを設置するなど儲ける公園を考えている。また、小口でクラウドファンディングの資金集めだけでなく、パトロンをつかまえて大きく資金を集めるのもいいかもしれない。  
その他、若いコーディネーターもいるのではないか。国立博物館には、利用者が子どもを預けられるよう若い女性がいるが、兵庫県でもこのような試みをしていただきたい。最後に、地元の人がどう来てもらえるか、私は工場で働いている人がリピーターになれば、世界でどこにもない公園となると思う。  
中間総括について、みなさんからいただいた意見をチェックすることについては、私に一任いただいてよろしいでしょうか。(委員の同意を得る)  
事務局は、責任を持って修正をお願いします。

## ■報告事項

尼崎 21 世紀の森構想の中間総括を踏まえた今後のスケジュール（案）について事務局より報告した。

## ■閉会